

令和3年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業

事業内容報告書の概要

地方公共団体名【 愛荘町 】
令和3年度に実施した取組の内容及び成果と課題
<p>1. 事業の実施体制(運営協議会・連絡協議会の構成員等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛荘町教育委員会事務局教育振興課外国人子どもサポート担当者 ・愛荘町教育国際指導員 ・愛荘町外国人支援員 ・各校園外国人児童生徒担当者
<p>2. 具体の取組内容 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること</p> <p>(1)教育委員会事務局、町校園長会、町国際交流協会の担当で、外国人児童生徒への支援について協議を行った。</p> <p>(2)教育委員会事務局教育振興課内に「外国人子どもサポート担当」を置き、児童生徒に母語での支援を行うサポート支援員と支援が必要な学校とのコーディネートを行った。</p> <p>(3)「特別の教育課程」の編成と実施についての各校の交流を行うとともに、「個別の指導計画」に基づいた指導実践の共有を図った。</p> <p>(4)各校のHPおよび学校だより等での各種取組および成果等を公表した。</p> <p>・各校「学校だより」等での成果報告</p> <p>(7)ICT(自動翻訳機「ポケットク」)を活用し、在籍校日本語指導教室等への支援(生活適応指導・自立支援・教育相談・文書翻訳・日本語指導)を行ったまた、保護者懇談会、進路説明会、入学説明会、家庭訪問時のICT(自動翻訳機「ポケットク」)活用した。</p>
<p>3. 成果と課題 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること</p> <p>(1)学校及び地域での支援の役割について確認できた。</p> <p>(2)外国人子どもサポート担当を中心とした指導支援体制の構築を層促進でき、初期指導を必要とする児童生徒へのきめ細やかな支援ができた。</p> <p>(3)愛荘町ならではの「特別の教育課程」様式を共通理解し、町全域で指導支援体制を整えることができ、個別の指導計画の実施・見直しのPDCAサイクルにより、対象児童・生徒の学びの質が向上した。</p> <p>(4)HPで成果を公表することにより、町内のみならず、広く成果を発信することができた。また、「学校だより等」によりより詳細な情報を発信することができた。</p> <p>(7)学校および家庭(児童生徒)間のコミュニケーションの向上が図れ、適切な生徒指導の実施が可能となった。</p>

本事業で対応した幼児・児童生徒数	幼稚園等	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校
	(人園)	40 人 (2校)	5 人 (1校)	(人校)	(人校)	(人校)	(人校)
うち、特別の教育課程で指導を受けた児童生徒数		28 人 (2校)	0 人 (0校)	(人校)	(人校)	(人校)	(人校)
4							
<p>・その他(今後の取組予定等)</p> <p>令和3年度までは、町内各小中学校に、外国語翻訳機(ポケットーク)を配置していたが、R4年度以降、レンタル経費の予算計上が認められなかったため、ポケットークは配置せず、GIGAスクール構想で配置隣のipadに翻訳アプリをインストールし、ポケットークの代替えとする。</p>							

※ 枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない) 成果物等があれば別途提出すること。

※ 事業内容報告書の概要は、担当者・連絡先欄を除き、様式9(添付1)の5. 成果イメージ資料のポンチ絵と併せて、文部科学省ホームページで公開する。